

コラボレーションカードの活用例

区分	学年	教科	単元	時期	ねらい
小	4	社会科	「ごみはどこへ」	1学期	地域の人々のゴミを減量するための取り組みに着目し、取り組みの工夫や効果を捉える。

時間	学習活動 (主な発問と予想される児童の様子)	指導上の留意点
導入 10分	<p>(1) 問いを立てる</p> <p>▼使用するスライド・カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わたしたちのくらしと、ゴミ問題の今 ・社会全体が排出するごみの量は減ってきていることを確認する。 <p>問：もしもみんなが、物を作って、買って、(売って、)捨ててを繰り返すと社会はどうなると思うかな？</p> <p>児童の発言例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみがどんどん増える。 ・資源がどんどん減っていく。 <p>○ニトリからの挑戦状(動画)</p> <p>問：ニトリは物をつくる時やはこぶ時、使い終わった後にどんな工夫をしているのだろうか。</p> <p>児童の発言例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけごみが出ないようにしているのかな。 ・資源をリサイクルして商品を作っているのかな。 ・商品を運ぶ時にどんな工夫をしているのかな。 ・ニトリの行う資源を大切にしている取り組み(つくる①、つくる②、はこぶ、つかいおわたあと)について予想や疑問を共有し、「ごみを減らすためにニトリはどのような工夫をしているのだろうか。」などの問いを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ゴミの量のグラフはアップにするなどし、一つずつ読み取るとよい。 ◆「作る」「買う」「捨てる」を板書し、循環するように矢印で結ぶと子どもが課題を捉えやすくなる。 ◆物を作って売る会社というニトリの企業イメージを引き出し、ニトリ(企業)の取り組みの工夫を学ぶことを確認する。 ◆動画を視聴する前に「どんな挑戦状だろう」と着目するポイントを伝える。 ◆ニトリの挑戦状の内容について「どんな挑戦状だったかな？」などと問い、学級全体で共有した上で、予想や疑問を束ね問いを立てていく。 ◆問いは板書し、児童はノートやワークシートに記入する。
	<p>サポーターおすすめポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・45分間で行う場合、ジグソー型学習のように「つくる①」「つくる②」「はこぶ」「つかいおわたあと」の4つの取り組みの中から一つ選ぶようにし、個別に追究した後に全体で共有する学習展開が考えられる。 	

時間	学習活動 (主な発問と予想される児童の様子)	指導上の留意点
展開 25分	<p>(2) 個別で追究する ▼使用するスライド・カード ○「つくる①」「つくる②」「はこぶ」「つかいおわたあと」</p> <p>(3) 全体で共有する 「つくる①」に関する児童の発言例 ・ベッドは粗大ゴミになっていた。 ・ニトリのベッドは2人で10分で分解できて、ふくろ3つ分におさまる。 【ヒミツ】 分解しやすくつくる</p> <p>「つくる②」に関する児童の発言例 ・資源には限りがある。 ・ペットボトルのリサイクル原料を使用している。 【ヒミツ】 資源を大切にしておつくる</p> <p>「はこぶ」に関する児童の発言例 ・物を運ぶと排気ガスが出る ・マットレスを小さくしてトラック3台分が1台分 【ヒミツ】 コンパクトにして一度にたくさん運ぶ</p> <p>「つかいおわたあと」に関する児童の発言例 ・布製品が燃やせるごみになっていた。 ・ニトリが回収してリサイクルしている。 【ヒミツ】 リサイクル</p>	<p>◆「どんな問題があったの?」「どんな秘密を見つけたの?」などと問い、個別で追究できているか机間指導を行うと苦手な児童も追究できるようになる。</p> <p>◆ニトリの取り組み(ヒミツ)を一つずつ情報共有し、板書する。</p> <p>◆共有するときに、テレビモニターなどにカードを映し出すと調べていない児童にも伝わりやすくなる。</p> <p>◆「つくる②」「つかいおわたあと」では具体的に製品を挙げると児童がよりイメージしやすくなる。</p> <p>◆「はこぶ」では消費者の視点から「持ち帰りやすい」「利便性のよさを切り口に展開することも考えられる。</p>
	<div data-bbox="178 1688 331 1845" style="background-color: #4a4a4a; color: white; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 活用のポイント </div> <p data-bbox="357 1727 1430 1809">各取り組みのカードセットは「社会の問題点」「ニトリの取り組み(ヒミツ)」「まとめ」という構成になっているため、児童に伝えることで個人で追究しやすくなる。</p>	
	<div data-bbox="178 1912 331 2069" style="background-color: #e91e63; color: white; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> サポーターおすすめポイント </div> <p data-bbox="357 1951 1398 2033">教材が魅力的なので、個人で追究しまとめる学習展開も考えられる。しかし、協働的学習に教師が板書や発問で伴走することで、児童がニトリの取り組みの意味や価値を捉えることにつながる。</p>	

時間	学習活動 (主な発問と予想される児童の様子)	指導上の留意点
まとめ 10分	<p>(4) 取り組みの意味を考える 問：物を作って売る会社なのに、なぜニトリはこのような取り組みをしているのだろう？</p> <p>児童の発言例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ地球の資源や環境を大切にしたいから。 ・これからもずっと豊かなくらしが続くように。 <p>(5) まとめ（問いに対する答え） 問：ごみを減らすための取り組みで、ニトリはどのような工夫をしているといえるかまとめてみよう</p> <p>児童の発言例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ、物を作って売るだけではなく、ずっと資源がなくならないように環境のことを考えてものづくりをしている。 <p>○ニトリの想い（動画視聴）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた後にニトリの取り組みの意図がわかる動画を視聴し、児童の追究と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆十分にニトリの取り組みについて追究した上で、「なぜこのような取り組みをしているのか」と問うことで、児童はこれまでの追究を結びつけながらニトリの取り組みの意味（価値）を考える。 ◆まとめは児童が個人で考えノートやワークシートに記入する。それを全体で共有する。 ◆動画を視聴し、ニトリの取り組みやその意図を確認し、児童の追究を検証する。
	<div data-bbox="183 1317 343 1473" style="background-color: #4a4a4a; color: white; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 協働の学び </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」の問いを行うことで、それぞれの取り組みを関連付けて意味（価値）を考える。 ・板書上で「つくる①」「つくる②」「はこぶ」「つかいおわたあと」を矢印で結びつけると、ニトリの目指す循環型社会がより見えるようになる。 	
	<div data-bbox="183 1541 343 1697" style="background-color: #4a4a4a; color: white; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 授業によりつけられる力 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・問いに関係する言葉に着目して情報を集める力。 ・情報を結びつけて、統合する力。 ・自分もごみの減量や資源を大切にしたいという社会参画意識の醸成。 	